

### ブランド米の開発

**問** 日高地域で南高梅によく合うおにぎり専用の米を開発してはどうか。

**答** 県では、国等で開発された耐暑性や食味に優れた品種の現地栽培試験を行い、本県に合った有望な品種を絞り込んでいるところです。これらの品種から、南高梅を具材としたおにぎりに相性のよいものを選抜し、南高梅のおにぎりに適した新品種として、J・A等と連携して広くPRするとともに、試作または本格的な栽培をしていたり、農家を募集し、普及を図ること、日高地域に新たな品種の米産地をつくっていく所存です。



### ICT機器の利用

**問** タブレット端末等の長時間利用は、健康面に影響を及ぼすことが指摘されている。適切な利用を促す指導が必要であると考えるが、どうか。

**答** タブレット端末等のICT機器は利便性の高いツールであり、今後の活用は必須です。各学校においては、児童生徒や保護者に対し、目の健康を守るための方法等について指導及び啓発を行っています。また、県教育委員会でも、専門家等と連携を図り、家庭におけるルールづくりのリーフレット等を作成し、授業での活用を促しています。

### IR誘致

**問** IR誘致の今後の見通しと、推進する上でどういった思いで取り組むのかについて、知事の所見を伺う。

**答** IRができると、雇用効果・所得効果があり、県の持続的な発展につながります。一方で県民の皆様が懸念されるギャンブル依存症はこういう形で防ぐことができるという見通しがあるため、頑張つて進めています。今後は、事業者と交渉をしながら、区域整備計画をレベルの高いものに仕上げ、議会や県民の皆様へ説明をしながら、国の認定が受けられるよう全力を挙げて取り組んでいきます。

### 地場産農産物の利用促進

**問** 地産地消を進めるとともに、子供たちの食の安全を守るため、学校給食への有機農産物の利用を促進すべきではないか。

**答** 学校給食への地場産農産物の利用は、価格や供給量が折り合わず伸び悩んでいます。そのため県では、学校給食と農業の関係者間で協議会設立を推進しており、現在、7市町で設立されています。引き続き、各地域に協議会の設置を広げ、地場産農産物が学校給食で利用される仕組みを構築し、有機農業の振興を図ること、有機農産物を含めた地場産農産物の利用拡大を目指していきます。

### 世界農業遺産の認定

**問** みかんの産地である下津と有田の両地域のみかんシステム(それぞれの地域における持続的農業システム)が一体となった世界農業遺産認定申請に向けた取組について伺う。

**答** 下津、有田両地域のみかんシステムが一体となった申請は、世界農業遺産の認定取得に極めて有効と考え、現在、両地域の推進協議会及び関係者と協力し、融合したシステムの作成に取り組んでいるところです。今後は、みかんシステムの融合案を両地域の推進協議会にお諮りし、次期世界農業遺産への認定申請に向け、来年度、国の承認が得られるよう全力で取り組んでいきます。



### 国道371号紀見トンネル

**問** 新紀見トンネル(仮称)も貫通し、371号バイパスの開通も見えてきた。紀見トンネルの天井板の撤去を前提とするリニューアルについてはどうするのか。

**答** 今般、新紀見トンネル(仮称)の開通の見通しが見え始めたことから、今年度当初より大阪府との協議を再開したところです。つきましては、今年度実施中の2回目の法定点検の結果等も踏まえ、天井板の撤去や照明のLED化など抜本的な維持修繕について、大阪府の協力も得ながら、取り組んでいきます。

### 歴史的遺産の保存や維持に向けて

**問** 戦争の悲惨な記憶が風化しないよう、「特攻艇(震洋)の基地跡」といった県内の歴史的遺産の保存や維持をどうしていくのか。

**答** 県は幕末から第2次世界大戦終戦頃までのいわゆる近代の文化遺産について調査を進めており、市町村からは「『震洋』の基地跡」を含む2500件余りの事案が報告されています。歴史的遺産を後世へ伝えていくには、市町村が地域住民と連携し、一体となって保存と活用に取り組むことが重要です。県では、このような取組を支援していきます。

### 国民健康保険と保険料水準の統一

**問** 国民健康保険について、受益と負担をどう考えて、統一保険料(税)を目指すのか。

**答** 本県では、平成30年度から10年間で保険料水準の統一を目指していますが、様々な課題があります。その中でも、

医療費水準の格差の是正は難しい課題ですが、県民の理解を得るためにも是正に向けた取組を進める必要があると考えます。負担と給付の公平性の観点から、同じ条件であれば同じ保険料水準となることが望ましいと考えており、そのためにも、市町村と協議を重ねながら、医療費水準の格差の是正に向けた取組を進め、保険料水準の統一を目指していきます。

### 地場産業の海外進出支援

**問** 繊維産業をはじめとする地場産業について、海外取引のスキル等を学ぶ勉強会を後押ししてはどうか。

**答** 県庁内に開設されたジェトロ和歌山貿易情報センターと連携し、海外市場調査や販売戦略の策定支援等を行うとともに、海外展示場への出展支援など県内中小企業の海外展開を支援しています。今般もジェトロ等との連携により、オンライン併用セミナーをはじめ、必要な情報・知識が入手可能な環境整備を一層進めるとともに、各種支援メニューの活用をさらに促していきます。

### 介護支援専門員(ケアマネジャー)

**問** 介護支援専門員の不足を感じている事業者の割合はどうか。また、介護支援専門員

の資格取得に向けた支援や更新研修受講に係る負担軽減に向け、どう取り組んでいるのか。

**答** 介護支援専門員の不足を感じている事業者の割合は、令和2年度の調査で、県全体で約3割となっています。県では、介護職員のキャリアアップ支援として、介護支援専門員資格取得のための講座を実施しています。また、介護支援専門員の更新研修については、研修実施機関である和歌山県介護支援専門員協会と協議の上、これまでの複数コースの設定などに加え、今年度からオンラインでの受講も可能とするなど、受講者のより一層の負担軽減に取り組んでいます。

### 熊野川の洪水対策

**問** 各地に大きな衝撃と多くの傷跡を残した紀伊半島大水害から10年が経過した。当時の災害を踏まえ、二度とこのような犠牲を出さないため、熊野川の洪水対策に向けた知事の決意を伺う。

**答** 熊野川の抜本的対策に必要不可欠である河川整備基本方針の見直し、先般、国で始まり、河川整備基本方針が策定され、そして河川整備計画が策定されることで、実際の施工につながるため、整備の早期完成を望んでいます。県としても、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等必要な予算の確保に努め、災害に対して強靱な施設整備等を行い、引き続き、県民の「いのち」と「くらし」を守っていきます。